

# 「SHIP! SPACE」講座



当事者・家族と、ともに考える、学び合う、対話する、実践する、一步を応援

ハイブリッド講座 第5回 (全12回シリーズ)

## 学校の「当たり前」を問い直す

不登校35万人。小中高生の自殺者数は過去最多を記録した。不登校児童を抱える保護者の離職、自責感、心理的負担も深刻だ。家族が追い詰められていく背景には、様々な「学校リスク」(体罰、いじめ、自殺、ブラック校則、部活動や教員の過重労働等)があるとされる。しかし問題の本質は見えにくい。本講座では、学校問題の実態について発信を続ける現役教師の西村祐二氏、教育社会学者の内田良氏を迎え、現場にある危機的事例やデータをもとに、私たちの学校に対する常識を問い直す。子どもの権利を守るための学校のあり方とは何か？学校教育や社会はどう変わっていけばいいのか？今こそ、考えたい。

教育社会学者の立場から

### 「わからない」からはじめよう

エビデンスにもとづく  
学校リスクの見える化活動

うち だりょう

#### 内田良

1976年福井県生まれ。名古屋大学大学院教授。教育社会学者。「学校リスク学」を提唱し、部活動の長時間労働や学校事故、校則問題など、教育現場のリアルな課題をデータで可視化し積極的に発信している。著書に『教育という病』(光文社新書)、『ブラック部活動』(東洋館出版社)。最新著は、増補「児童虐待」へのまなざし：社会現象はどう語られるのか(岩波現代文庫)がある。



現役教師の立場から

### 学校の息苦しさの正体

にしむら ゆう じ

#### 西村祐二

1979年兵庫県西宮市生まれ。関西学院大学卒業後、小劇場や自主映画で活動。岐阜大学大学院に進学し、32歳で現職の岐阜県立高等学校の地歴科教諭に。教師の労働問題や生徒の校則問題について発信している。著書に『シン・学校改革』(光文社)、共著『先生がいなくなる』(PHP新書)など。演技を交えた授業には定評がある。



講座参考図書



SHIP! 第3号  
特集「学校問題とひきこもり」

不登校の親の立場から



おいかわもとこ  
老川素子

不登校は35万人もいて、不登校傾向の子を含めたら100万人を超えているのだから、不登校は個人や家庭の問題でなく、社会の問題という認識が広がってほしい。義務教育に保護者として関わって10年目、不登校・行き渋り対応6年を通して感じる学校への疑問を投げかける。

コメンテーター



いげみまさき  
池上正樹

1962年生まれ。横浜市出身。SHIP!共同代表。ジャーナリスト。約30年にわたり、ひきこもり関係を取材。学校時代の傷つきが大人の長期ひきこもりを生んでいる。学校問題の本質はどこにあるのか？

講座コーディネーター



うえだりか  
上田理香

1971年東京生まれ。SHIP!共同代表。コーディネーター。子どもの自殺、いじめ、暴力。命や人権にかかわるリスクがなくなる学校に。

# 8月18日(火)

18:00  
〜  
20:30

本講座は**完全オンライン**講座です。  
(会場参加はありませんのでご了承ください)  
アーカイブ配信 9月8日〜(申込受付2日前まで)

受講費

SHIP!第3号「学校問題とひきこもり」  
購読の家族・当事者経験者 = **無料**  
購入されない方は参加費 1,500円(税込1,650円)

支援者・家族・一般 = 1回 3,500円(税込3,850円)

SHIP! SPACE 講座は、年間**全12回**。  
当事者フリーパス・会員フリーパス割引、  
団体割引があります。詳細は  
チラシ裏面・公式サイトをご覧ください。

【お問い合わせ】

一般社団法人 SHIPひきこもりと共生社会を考えるネットワーク  
上田理香(コーディネーター、SHIP共同代表) 池上正樹(コメンテーター、SHIP共同代表)

<https://shiphiki>

SHIP! ひきこもり

お申込、  
詳細はコチラ ▶

